

1 【出題の意図と対策】

文学的文章(小説)の読解で、ここでは、川端裕人の『ドードー鳥と孤独鳥』が題材です。科学記者の「わたし」が、ゲノム研究者になった幼馴染のケイナと二十年ぶりに再会し、互いの研究や過去について語り合う様子が描かれています。小説を読むときには、登場人物の心情変化や人物関係を丁寧に読み取ることが大切です。また、比喩的な表現や象徴的な意味についても理解を深める必要があります。それぞれの設問について、何が問われているのか、文章中のどの部分が根拠となっているのかを確認しながら、解答していきましょう。

【解答】

- ① a ぎょうしゆく ① ひた(し)
- ウ
- ② 記事のテーマにすることは、ケイナちゃんとの記憶に傷をつける(29字)
- ③ 脱絶滅の科学の最先端にいるケイナちゃんに比べて、自分の至らなさを痛感する気持ち。(40字)
- ④ ⑤
- ⑥ エ

【解説】

- ② ポイント《ことばの意味を正しく理解できるかどうか》
ウ「水魚乃交」は、水と魚のように切り離せない親密な関係を表す故事成語です。ア「呉越同舟」は、敵同士が同じ境遇に置かれること、イ「烏合之衆」は、鳥が集まっているだけのようなまとまりのない集団、エ「同床異夢」は、一緒にいても考えていることが違うことです。
- ③ ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》
「わたし」が何を心配していたのかを考えます。直前にある「そんなこと」が心配していた内容であり、「そんなこと」は、さらにその前の「ケイナちゃんとの大切な記憶の塊に傷をつけることになりはしないか」を指します。「わたし」は傷をつけることを恐れて、「絶滅動物にまつわる記事を書きながらも、これまで、ドードー鳥や孤独鳥をテーマにすることは避けてきた」のです。(ドードー鳥や孤独鳥を) 記事のテーマにする、ケイナちゃんとの大切な記憶の塊に傷をつけるの二点を字数内でまとめます。

2 【出題の意図と対策】

説明的文章(論説文)の読解で、題材は、阿部公彦『「読解力」とは何か——「読めていない」の真相をさぐる』です。筆者は「今日は暑いなあ」という同じ言葉が四つの異なる文脈でそれぞれ違う意味を持つことを示し、文脈把握の重要性を論じています。論説文を読むときには、筆者の主張と具体例の関係を正しく把握し、抽象的な概念(文脈の切り替え、アイロニー、暗示など)を、具体例を通してどう説明しているかを読み取ることが大切です。

【解答】

- ① b 根幹 ③ 難(しい)
- ② イ
- ウ
- ③ X 相手との交渉の一部 Y もっともおもしろい働き
- ④ X 小学生ですら対応できる言葉の使い方であり、言語教育で必ず身につけさせるべき(37字)
- ⑤
- ⑥ イ

【解説】

- ② ポイント《文法(助動詞)の知識があるかどうか》
イ「面倒にも感じられますし」の「られ」は、自然にそうなるという自発の意味を表す助動詞です。ア「鍛えられる」、ウ「なされ」、エ「使われる」はすべて受け身の意味です。
- ③ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
ウは、第二段落の「虚構作品はどんな短篇であっても、それぞれが完結した一個の作品世界を形成して」いて、その世界のルールの読み取りが「うまく行った時には、今まで知らなかった物の見方と出会ったりもできる」という内容と合致します。アは、「人物の思いや感情を考えることが最も重要」の部分が、第二段落の「人物の『思い』とか『感情』の話になると考える人がいます。これはかなりの誤解です」という筆者の考えと異なります。イは、「常に面倒」という部分が「時に面倒」とある本文の内容に合いません。エは、第三段落に「こうした作業」を通して「文脈を切り替えるという作業にも意識的になれる」とありますが、「こうした作業」は「登場人物の心境を想像すること」ではないので誤りです。

- ④ ポイント《人物の心情を正しくまとめられるかどうか》
直前に「脱絶滅の科学の最先端にいる。ケイナちゃんに比べてたら」とあり、ケイナちゃんと自分を比べているのだとわかります。また、少し前に『「すごい! がんばろう!」/そう言いながら、わたしは、自分自身がまったく至らないと痛感した』とあり、ケイナちゃんのごさを前に、自分自身の至らなさを感じていることがわかります。この二点を字数内でまとめましょう。なお、ここまで差が開いてしまったのは、問③で考えたとおりの「わたし」が「ドードー鳥や孤独鳥をテーマにすることは避けてきた」からです。
- ⑤ ポイント《文章の内容を正しく読み取れるかどうか》
「わたし」の具体的な計画を文章中から読み取る問題です。「帰国したら、まず、リョコウバトの過去と現在と未来の話を書く」「日本のドードー鳥を追う」「モーリシャス島や、孤独鳥がいたロドリゲス島も全部、行く」という発言から、新聞記事執筆↓日本調査↓海外取材という段階的な計画が読み取れます。したがって、イが正解です。アは、「日本国内で調査し」以降の内容が誤り、ウとエは、本文に書かれていない内容です。

- ⑥ ポイント《文章の表現の特徴について理解できるかどうか》
アは、「共に歩いてきた」が誤り、イは、「非現実的」が誤りです(実際は研究のチャンスが訪れたことを表現)。ウは、「今になって重荷になっている」が文章からは読み取れない内容です。エは、本文の後半部分の内容に合っています。

- ④ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
【文脈①】にならない、【文脈②】〜【文脈④】の内容をつかみま
す。Xは、【文脈②】の最後に「こうなる」とこの発言は単なる感想ではなく、相手との交渉の一部ということになってきます。
【文脈③】に「この場合も相手との交渉という側面があるけれど、
②に比べるとあくまで暗示」とあることから、「相手との交渉の一部」があてはまるとわかります。Yは、【文脈④】でアイロニーについて「これが実は言葉というもののもっともおもしろい働き」と書かれています。
- ⑤ ポイント《筆者の主張を正しくまとめられるかどうか》
最終段落に「暗示やアイロニーは、言葉の使い方としては決して高度なものでもなければ」「小学生ですらこうした用法に対応できる」とあり、「こうした用法を身につけさせずして、何が言語教育かと言えようなもの」とあります。「小学生ですら対応できるもの」であり、「言語教育で必ず身につけさせるべきものである」ことの二点をとらえ、解答をまとめます。

- ⑥ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
イは、第三段落の内容に合っています。アは、第一段落の「重視されてきた……これからもそうでしょう」と反対の内容です。ウは、「言い方が悪いとかえって相手を怒らせることがある」が、エは、「その感性を持ち合わせた人が芸術家になれる」が、本文に書かれていない内容です。

3

【出題の意図と対策】

平安時代の歌人、紀貫之と『古今和歌集』についての解説文の読解問題で、筆者は、作家の田辺聖子です。『古今和歌集』は日本初の勅撰和歌集(天皇の命令によって編まれた和歌集)として知られますが、それまでの漢文中心の文学から日本独自の大和言葉による文学への転換点となった重要な作品です。筆者は、『古今和歌集』には編纂者である紀貫之の強い自信と使命感、そして和歌の永続的な力への信念が込められていると述べています。古典文学は難解に感じられるかもしれませんが、歴史的背景や作者の意図をしっかりと理解し、そのうえで、文章全体の論理構造を把握していきます。今回の出題は解説文ですので、筆者の主張と根拠を押さえ、設問に答えていきましょう。

【解答】

- ① エ
 - ② X 漢字、漢文、漢学が全ての発想のもと
 - ③ Y 大和言葉を使って歌を詠む
 - ④ I 天地をも動かす
- II 例 この世に同じ時代に生まれて(13字)

【解説】

① ポイント 《和歌の背景と意味を正しく理解できるかどうか》
紀貫之の歌の詠まれた状況を本文から読み取ります。「初瀬の長谷寺へ参るたびに泊まっていた家があったのですが、しばらく来訪がとだえて、久しぶりに訪れたときに、その家の人が、宿は昔のままにありますのに、と言ったのに対し、そこに咲いていた梅を折って詠んだ歌」だとあります。続けて書かれている「あなたの心こそわからない」「あなた」は、「その家の人」のことです。アは、「昔の恋人への思い」をうたった歌ではありません。イは、「主人の好意的な言葉に対して感謝の気持ち」ではなく、互いに皮肉を込めてうたっています。ウは、貫之ではなく「家の人」の心情です。エは、「花の変わらない美しさ」と「家の人の心のわからなさ」という対比構造を正しく捉えており、本文の説明と合致しています。

② ポイント 《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
『古今和歌集』の成立背景について書かれた部分をさがします。本文中ごろに、「それまで日本の教養人は、漢字、漢文、漢学が全ての発想のもとでした。……ようやくこのころから大和言葉を使って歌を詠むようになり、我が国の言葉で綴られた歌集をつくろうという気運が生まれた」と設問文と同様の内容が書かれています。したがって、Xには「漢字、漢文、漢学が全ての発想のもと」、Yには「大和言葉を使って歌を詠む」が入ります。

③ ポイント 《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
アは、「自分の和歌を世に広めるため」が本文に書かれていない内容です。イは、「貫之はまだ三十代、新進気鋭の歌人です。貫之は批評家としても優れていて、小野小町初め有名な歌人の批評をしている」という文章の内容に合っています。ウは、人麻呂と他の歌人とを比べた記述は本文にはありません。エは、「いにしえの歌人」ではなく、「後世の人たち」の誤りです。

④ ポイント 《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》
I は、「仮名序」の冒頭部分について解説した最終段落に着目します。「歌のすぐれたものは天地をも動かす。男女の仲、猛き武人の心も動かす」とあることから、「天地をも動かす」の部分を抜き出します。II は、文章中ほど、「仮名序」の最後のところを引用した部分に着目します。「貫之らがこの世に同じく生まれ、この事の時にあへるをなむ、喜びぬる」とあります。この世に同じ時代に生まれて、「この事の時にあへる」つまり、『古今和歌集』の編纂にたずさわれたことがとてもうれしい、という意味です。「この世に同じく生まれて」を「同じ時代に生まれ合わせ」などと訳します。

4

【出題の意図と対策】

近年「読む」能力とともに、「話す・聞く・書く」能力の育成に力が入られています。入試においては、「書く」能力を判定する記述式の問題とともに、スピーチ・発表・話し合いなど、「話す・聞く」能力を判定する会話形式の問題も頻繁に出題されています。話し合い形式の問題では、個々の発言の意味や主張内容を押さえるとともに、問題で用いられている資料を正確に読み取ることが大切です。普段から資料を使った問題などに関心を向けて、資料のポイントをつかむ練習をするように努めましょう。

【解答】

- ① エ
 - ② イ
 - ③ ア・ウ・オ(完答・順不同)
 - ④ Y 例 エ(Y・Zで完答)
- Z (なぜなら) 市場では売れないような農畜産物も無駄にならずにすむうえ、地域の名前を広めることもできるからだ。地元を離れた若い人たちにSNSで商品を広めてもらったらいいと思う。(80字)

【解説】

① ポイント 《三字熟語の構成を理解できるかどうか》
傍線部「不可欠」は「欠」くことが「不可(できない)」の意味で、二字十一字の熟語です。同じ構成は「未知」の「数」、将来どうなるかわからないという意味の「未知数」です。アは「非十課税」、イは「無十作法」、ウは「不十自由」で、どれも一字十二字の熟語です。

② ポイント 《資料を論理的に読み取ることができかどうか》
「風花さんの意見が論理的なものとなるために」という設問文の条件に注意して考えましょう。アは、「資料I」を見ると2020年までの十年間で7.6ポイントの増加ですから、「さらに10ポイント以上増加した」が誤りです。イは、「資料I」の内容に合っています。ウは、30〜64歳の割合が増加し続けているのは1990年までですから、「2000年までは増加し続けている」が誤りです。エは、30歳以上の割合、つまり30〜64歳と65歳以上の、1970年の合計値は53.2%で半数を超えており、2020年のそれは79.5%で八割には達していないので、「半数以下」「八割強」が誤りです。

③ ポイント 《発言の特徴を理解できるかどうか》
アは、光星さんは二回目の発言で資料の内容と注目すべき点を、四回目の発言で過疎地対策の基本的な考え方を伝えているので合っています。イは、小雪さんは「話し合いを次の段階へと進めて」はいないので誤りです。ウは、風花さんは一回の発言で資料の読み取りと自分の意見の両方を言うことはなく、唯一両方述べている一回目の発言では、意見を言う前に「そこから考えると」と意見であることを伝えてから意見を述べているため、合っています。エは、「他教科の学習を通じて得た知識」だと述べられています。オは、風花さんの二回目の発言内容に合っています。

④ ポイント 《資料を適切に利用して、論理的な文章が書けるかどうか》
ア：作業を通して地元の人と仲良くなり、ツアーにくり返し参加してくれる、さらには、第一次産業の担い手になってくれる可能性ががあります。検定制度を設けたり、戦力となる人には謝礼を出したりすると、参加者のやる気につながるかもしれません。

イ：親子で地域と深く、長期的に関わってもらえますし、人数が増えれば現地の学校も廃校にならずにすみます。親子で移住する、子どもだけで下宿する、寮に入るなどの滞在方法の選択や、滞在期間の選択ができると参加しやすくなるかもしれません。

ウ：その企業の人に移住してくれますし、地元の人働き口になる可能性もあります。空き家をオフィスや従業員の社宅として提供する、インターネット作業を手伝ってもらうなどするとお互いにメリットがあります。